

外来植物

ヒガタアシの情報提供にご協力ください

平成 23 年 4 月、豊橋市の梅田川河口部付近において、国内で初めてヒガタアシ（学名：スパルティナ・アルテルニフロラ）が発見され、また同年 10 月には半田市においても同種と疑われる植物が発見されました。

この植物は繁殖力が非常に強く、分布を拡大し干潟を草原化させるなど、県内の自然環境に非常に大きな悪影響を与えるおそれがあります。

県としては、平成 23 年の 9 月から掘り取り等の駆除を実施してきましたが、侵入経路が不明であり、他の場所にも侵入している可能性があります。

つきましては、海辺にて自然観察等をされる際には、この植物の存在に注意していただき、それらしき植物を発見された際には、下記の連絡先まで連絡をお願いします（メールの場合は、画像の添付は 2.5MB 以下でお願いします）。

ヒガタアシとは

- 南北アメリカ原産のイネ科の汽水性多年生草本。最大で 2.5m 程度の高さになり、海岸近くの河口域、干潟、入江などに群落を形成する。
- 繁殖力が非常に強く、種子による繁殖の他、地下茎による増殖により毎年 1 m 以上分布拡大する。
- 分布を拡大すると、在来植物・生物を駆逐する他、干潟を草原化させ、それに伴う水鳥や底生生物などへの著しい悪影響が想定される。
- 日本ではこれまで輸入・利用された記録はないが、他国では干潟を陸地化するため利用されている事例がある。

（発見のポイントは裏面を参照してください。）

連絡先：愛知県環境部自然環境課

野生生物・鳥獣グループ

TEL：052-954-6230

FAX：052-963-3526

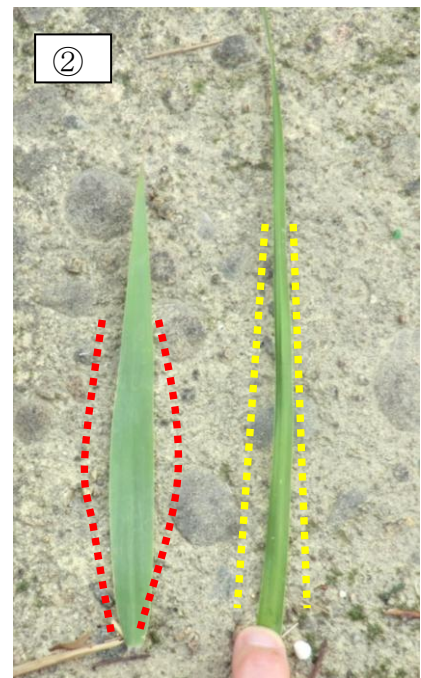
メール：shizen@pref.aichi.lg.jp

ヒガタアシ発見のポイント

- 河口部や干潟などの、満潮時に海水をかぶるような場所、ヨシよりも海側に丸いパッチ状の群落を作る。
- これまで何も生えていなかった河口部などに、急速に群落ができている。
- 冬季にヨシは枯れて茶色くなるが、ヒガタアシは緑色を保っている。写真①
- ヨシの葉は丸みを帯び幅が笹の葉のように広いが、ヒガタアシの葉はススキの葉のように細長い。写真②
- ヒガタアシの葉は、ヨシの葉に比べ根元から伸びる。写真③
- ヨシの葉触りはザラザラしているが、ヒガタアシの葉触りはツルツルしている。



①
冬季のヒガタアシ。周囲のヨシは枯れているがヒガタアシは緑を保っている。



②
左：ヨシは葉が丸みを帯び幅が広い。
右：ヒガタアシは葉が細長く幅が狭い。



③
左：ヒガタアシ
右：ヨシ
・ヒガタアシの葉はヨシに比べ根元から伸びる。